



「北の子」



児童数 76 名 家庭数 61

学校教育目標 「やさしい子 かしこい子 たくましい子」 文責 野口千津子

目指す学校像 「力いっぱい活動し 笑顔あふれる学校 ~学校・家庭・地域が連携した教育の推進~

「リスペクトアザース」

人権作文を紹介します。
全て原文のままです。

僕は、日本人の両親を持ちながら、アメリカのサンディエゴで生まれて、十歳半まで生活し、地元のデイケア（保育園）、プレスクール（幼稚園）、小学校に通った。その中で出会った先生たちが何度も口にした『respect others（リスペクトアザース）』という言葉は、今も僕の行動や考え方に大きな影響を与えている。

サンディエゴは、ロサンゼルス以南にあり、メキシコの国境から一時間程度だったので、土地柄のせいか、クラスには、肌の色も髪の毛の色も本当にいろいろな人種の人たちがいた。僕が物心ついたときには、周囲にいろいろな人種の人たちがいるのが当たり前だったので、自分がまわりの人と違っていることも当然だと思っていたし、それに対して深く考えることもなかったように思う。どこの国でも同じだと思うが、集団生活が始まると、誰かが意地悪をしたとか、誰かが誰かにいじめられたとか、いわゆる人間関係のトラブルが起こってくる。そんなとき、先生たちは必ず『リスペクト アザース』と言い、当事者に反省を促した。『リスペクト』の意味ははっきりわからない保育園や幼稚園の頃から、ことあるごとに繰り返し叩き込まれた。日本語にすると、「他の人のことを尊重しなさい」というような意味なのだが、今思うと「意地悪しないで、みんな仲良くしなさい」とか、「いじめはダメ」というそのときの行動を注意するのではなく、その行動を起こしてしまった根本の考え方を問題にしていることになる。

また、この言葉は僕が入っていたリトルリーグの監督やコーチもよく使っていた。選抜テストがない地元のリトルリーグでは、上手い選手と上手くない選手が混合して十二人でチームとして試合に臨まなくてはいけなかった。上手くない選手がフライをポロリと捕りそこなったとき、チーム全体が「おい、この下手くそ」と怒鳴りたくなる場面で、監督やコーチは『リスペクトアザース』と言った。やる気がなくてエラーをするのはもってのほかであるが、やる気があっても上手くできない選手はいるのである。この場合は、そこをわかってやれという意味だと思っている。実際、当時初心者だった僕は、この言葉を聞いて救われる気持ちになり、もっと上手くなるようにうんと頑張り、シーズン最後にはチームに少しは貢献できるようになった。

その後、僕は日本の小学校に通い始めた。周囲のみんなのおかげで生活にはすぐに慣れたが、同時に大きなカルチャーショックも受けた。一番驚いたことは、みんなが他の人と大きく違わないように、なるべく同じようになるように非常に気を遣っているように見えたことである。他人よりうまくいかないから目立たないようにしているのではなく、他人よりうまくできて目立たないようにしているように感じた。僕は最初のうち、そのノリがわからず今までどおり、自分が上手く出来たことを周りの人にも伝えていたら、「それは自慢だ」と言われて、なんとも悲しい気持ちになった。また、友達同士で相手の気持ちになれば絶対言えないような侮辱するようなひどい言葉を言い合っている、『冗談』と言ってうやむやにしていることにも驚いた。僕がよくわからない世界だった。僕が叩き込まれていた『リスペクト アザース』の世界はここにはなかった。

僕の限られた経験の話になるが、アメリカ（サンディエゴ）ではなぜそんなに『リスペクト アザース』を子どもの頃から叩きこんでいるのだろうか。

それは、アメリカ社会がつい最近までひどい人種差別などを行ってきたことの反省からかもしれない。居住地区を制限したり、公園やバスなどの公共の場でも座る場所をわけていたり、差別することが当たり前で、一般人が差別したりされたりすることに何の疑問を持たずに時代が流れていた過去がある。そんな過ちをこれから先に繰り返さないように、子ども達に叩き込んだり、またそうすることによって、大人も自分自身を戒めているのかもしれない。

僕は日本でももっと、『リスペクト アザース』が浸透していけばいいと思う。日本は表面上差別のない社会なので、必要ないと思われるかもしれない。しかし、これこそが人権を考える上での基本だと思う。人権尊重の社会を作っていくのは、僕たちひとりひとりの考え方によるからだ。同じ人間は一人もいない。人と違っていることがまたその人の個性である。違う点だけでなく、うまくいったこと、できなくても努力していくことなどを尊重し合っていくことができれば、もっと素晴らしい社会になっていくと思う。

「法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会主催第32回全国中学生人権作文コンテスト入賞作品」



12月4日～10日は人権週間です。違いを受け止めて、相手を理解していく社会はこれからもっと必要になってきます。それぞれの違いを認め合う気持ちをもって生活できる子どもたちになってほしいと願っています。

12月の行事予定

日	曜日	行事	下校時刻
1	月	特別日課 5時間授業	全学年14:05
2	火	4年社会科見学	1~2 14:50 3~6 15:50
3	水	芸術鑑賞会事前準備会 (3年) 特別日課	1~2 14:05 3~6 14:55
4	木	委員会活動⑧ 読み聞かせ	1~3 14:50 4~6 15:50
5	金	おはようタイム	1~3 14:50 4~6 15:50
6	土		
7	日		
8	月	特別日課	1~2 14:05 3~6 14:55
9	火	教育相談日 5時間 講話朝会	全学年14:50
10	水	教育相談日 5時間 スキルタイム	全学年14:50
11	木	教育相談日 5時間 読書フツ化	全学年14:50
12	金	教育相談日 5時間 おはよう タイム いちごルーム交流会	全学年14:50
13	土		
14	日		
15	月	特別日課 スイッチオフ の日	1~2 14:05 3~6 14:55
16	火	学級の時間	1~2 14:50 3~6 15:50
17	水	スキルタイム ゆく年くる年 集会(ロング昼休み)	1~2 14:50 3~6 15:50
18	木	クラブ活動⑨ 読み聞かせ (クリスマスイベント)	1~3 14:50 4~6 15:50
19	金	学級の時間 5時間授業	全学年14:50
20	土		
21	日		
22	月	5時間授業 特別日課	全学年14:05
23	火	給食最終日 4時間授業	全学年13:30
24	水	2学期終業式 3時間授業	全学年11:30
25	木	冬休み(~1月7日まで)	
26	金		
27	土		
28	日		
29	月	閉庁日	
30	火	閉庁日	
31	水	閉庁日	

北小児童の活躍(敬称略)

持久走大会(11月19日実施)多くの保護者のご声援とご協力をいただき、無事に実施することができました。ありがとうございました。【入賞者数はブロックの人数に応じています。】

1・2年生 男子1位 ○○○○ 女子1位 ○○○○○
2位 ○○○○ 2位 ○○○○
3位 ○○○○ 3位 ○○○○
4位 ○○○○ 4位 ○○○○

3・4年生 男子1位 ○○○○ 女子1位 ○○○○○★
2位 ○○○○○ 2位 ○○○○
3位 ○○○○ 3位 ○○○○
4位 ○○○○

5・6年生 男子1位 ○○○○★ 女子1位 ○○○○
2位 ○○○○ 2位 ○○○○○
3位 ○○○○ 3位 ○○○○
4位 ○○○○ 4位 ○○○○
5位 ○○○○
6位 ○○○○ ★…新記録賞

※これまでのいろいろな表彰は次号で紹介します。

◇北小の風景◇

～地域をはじめ、多くの人との関わりの中で、
力いっぱい活動し、笑顔あふれる北小の子どもたち～



けやき保育所との交流 1年生(10月23日)

1年生8名が45名の子ども達と交流をしました。1年生は、先輩として立派な姿で校舎内の案内したり、仲良くボール遊びをしたりして楽しく過ごしていました。

なかよし遠足(10月30日)

第23回の全校遠足。長い歴史のあるこの遠足では、上級生のリーダーシップと仲間のフォローシップを養うことができました。保護者の方の協力もいただき、みんなが多くのポイントを獲得して「吉見博士」になりました。



修学旅行 6年生(11月11日・12日)

東二小、西が丘小とともに鎌倉・箱根方面への修学旅行に行きました。天気も良く、紅葉もあり、班別行動では全員が笑顔でゴールの新江ノ島水族館に到着しました。ホテルでも楽しく過ごし、いい思い出がたくさんできました。



12月の生活目標:
学校をきれいにしよう!



西部北地区音楽会 5年生(11月13日)

吉見町の代表として、5年生が出場しました。吉田先生の指揮と石川さんの伴奏で、全員で心を込めて「マイバラード」を歌い上げ、会場に素敵なハーモニーを響かせてくれました。

